

第 10 回 みたけ創生有識者会議 会議録

- 日 時 令和 2 年 1 月 8 日（水）13 時 30 分～14 時 40 分
- 場 所 御嵩町役場本庁舎 2 階 第 1 委員会室
- 出席者 尾石委員（(株)ケーブルテレビ可児）、黒田委員（東海化成工業(株)）、
小林座長（岐阜大学大学院）、坂口委員（岐阜県可茂県事務所）、
重政委員（御嵩町金融協会（(株)十六銀行））、永谷委員（ながたに農園）、
伊左次総務部長、長屋企画調整担当参事、山田企画課長、丹羽企画調整係長、
玉川企画調整係員、渡辺環境モデル都市推進室副室長、伊納農業振興係長
- 欠席者 齊藤委員（学校法人荻須学園）、水内委員（名古屋芸術大学）

■会議進行

○挨拶	
山田課長	<p>委員の皆さまにおかれましては、旧年中は大変お世話になり、まことにありがとうございました。本年も何かとお世話になりますが、何卒よろしくお願いいたします。</p> <p>それではただいまから、第 10 回みたけ創生有識者会議を開催します。本日は、委員のうち、名古屋芸術大学の水内委員と、学校法人荻須学園の齊藤委員が欠席のため、6 名での開催となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>開会にあたり、小林座長よりご挨拶を申し上げます。</p>
小林座長	<p>新年も 8 日になりましたが、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。今年の正月は近年稀に見る温かい正月で積雪に困るようなことはなかったかなと思います。今年度はオリンピックイヤーということで、東京の方では開発がどんどん進んでいます。その発展をこの地方も指をくわえてみているわけにはいかない。ちょうど「麒麟がくる」という大河ドラマ、こちらについては皆さんもすでに把握されていると思います。ある問題で放送されるかハラハラしましたが、この「麒麟がくる」というのをある意味ステップにしまして、この地域の活性化、しかもそれを継続するという方向で発展していけるかと思っておりますので、皆さま方からのご意見ご助言等、よろしくお願いいたします。</p>
○資料確認・会議の進め方	
山田課長	<p>最初に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>=====</p> <p style="text-align: center;">事前配布資料・机上資料の確認</p> <p>=====</p>

	<p>資料の不足等ありましたら、お申し付けください。 ※各委員不足資料等なし</p> <p>本日の会議の進め方ですが、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>=====</p> <p>議題1・その他（地方創生推進交付金事業計画）について説明</p> <p>=====</p> <p>何卒忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
○議事	
山田課長	<p>それでは、ここから先の議事進行については、小林座長にお願いしたいと思ひます。事業説明及びご質問に対する回答につきましては、事務局または担当部署からお答えさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは座長よろしくお願ひいたします。</p>
小林座長	<p>はい、それではよろしくお願ひいたします。それでは議事次第に従って進めさせていただきます。</p> <p>(1) 第2期みたけ創生!!総合戦略(案)の審議について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 丹羽係長	<p>はい。私、丹羽から説明をさせていただきます。</p> <p>=====</p> <p>総合戦略案・それに伴うKPIについて説明</p> <p>=====</p> <p>簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。</p>
小林座長	<p>ありがとうございました。説明いただいたとおり、かなり案としてはまとまってきているというところと、KPIについても具体的な数値がどんどん上がってきているところですが、これにつきまして皆さま方からご質問、ご意見等ございますでしょうか。</p>
坂口委員	<p>ひとつよろしいでしょうか。</p> <p>数値目標については政策によってそれぞれ設定されるということだと思いますが、中には基準値と同数であったり、1期の基準値より下がっているものもありますが、そのあたりについてはどういう考えでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>資料3をご覧ください。第2期への方針というところで、「変更」「継続」「削除」の3つの選択肢によってお示しをさせていただいています。このうち「継続」の中でも「一（横棒）」で示している箇所につきましては、限界値がきている若しくはそれ以上減らさないというところの基準をもうけさせていただいているものです。例えば第1期の基本目標1の施策3</p>

	<p>の「企業の森づくりによる整備面積」があります。40.39ha というのが直近の実績値ですが、まとまった町有林を提供できる限度がある等、制度設計上、これ以上進めることが難しく、これまで増えてきたものを維持していくというのを目標として掲げさせていただいております。</p> <p>また、下方修正をさせていただいたものとして、先ほどの指標のすぐ下に「公共交通自主運行バス利用者数」があります。こちらは目標値が26,000人というところで、社会情勢等によってこの数値を継続することは難しいのではないかとこのところで検討し現実的な部分として、また、別にかかわりのある計画との整合性をとった上で一部を下方修正しています。</p> <p>上方修正をさせていただいたものについては、これから先の見込みがあるというものを含め、増加件数などを各部署へヒアリングを実施したうえで設定をさせていただいたものとなっております。</p>
<p>小林座長</p>	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。 (坂口委員頷く) ほか如何でしょうか。</p>
<p>尾石委員</p>	<p>よろしいでしょうか。前は欠席となり申し訳ありません。その関係もあって質問がずれていたらすみません。</p> <p>KPIのところ、例えば基本目標4の「郷土を誇れると思う人の割合」が、基準値25.7%に対し目標値30%ということで4.3%のアップになりますが、このような抽象的な満足度が、果たして施策1から4を実施していくことでどれだけ伸びるのかなというのは一般市民的に疑問を持って、ちょっと理想が高くないかなと思いました。</p> <p>ほかにも基本目標2の中に「御嵩町は住みよいと感じる人の割合」も同じようにポイントが高くなっていて、このあたり現実的には下げた方が目標値としては良いのかなというのは直感的に思いました。</p>
<p>事務局 丹羽係長</p>	<p>今の尾石委員からのご意見につきまして、基本目標自体はそれぞれの施策に対する総称、目標値に対して段階を経た形で設計をさせていただいているというところと、総合戦略自体が、来年度策定することになる御嵩町第五次総合計画後期基本計画のアクションプラン、行動計画としての位置づけとすることを国からも言われていますので、総合戦略と総合計画が紐づきした、共通項としての部分を出していくということもございましたので、それぞれの施策が効果としてあがってきた数値として感じてもらった部分、馴染んできた部分であって、住民アンケートの結果に基づいた数値として出させていただいたものです。</p> <p>こちらにつきましては、第五次総合計画を策定する際に、同様にまちづくりについてのアンケートを実施しています。その際の項目でも「郷土を誇れると思う」ということについて実施をしていますが、前回平成26年</p>

	にとりましたアンケートよりも大幅に数値が上がってきているというところがありまして、このあたりはみたけのええもんや可児才蔵など、地元で誇れるものがあるというのを感じていただくというのが大きな部分にもなってくると考えており、我々としてはこの指標は引き続き上げていきたい、上げなければいけないと考えています。
尾石委員	そうすると結構現実的な数字だということですね。
事務局 丹羽係長	我々としてはこの数値に行き着くという思いでやっていきたいと考えています。
小林座長	はい。ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。 一点確認させていただきたいのですが、資料2のKPIについて、濃く色塗りされているところは新しいもの、変更があったものということでしょうか。
事務局 丹羽係長	一部変更のものもございますが、基本的には新規のものを着色しております。
尾石委員	もうひとつよろしいでしょうか。 基本目標内の施策についてはこれで固定、増やしたり減らしたりというところまでは議論しないという考えでよろしいでしょうか。
事務局 丹羽係長	見直しについては、この計画期間中であっても随時見直しはできる状態にあります。もちろんその際にはこの有識者会議に諮ったうえで、御嵩町の総合戦略推進本部という町長を代表とする部門において承認をされた中で公表をしていく形となります。
尾石委員	そのお話を受けての感想という意味で、前回の分も含め述べさせていただく形になりますが、基本目標1「環境ファーストで未来を」ということで、それぞれの施策を含め良い目標だと思います。感想なのですが、御嵩町内で実施していることを御嵩町だけで一生懸命に行うのではなく、ほかの地域と連携しながら、例えば国を動かすような目標のものがあったとしても良いかと、感想として思いました。
小林座長	事務局からこれについてはどうでしょうか。 他の市町村とは交流というレベルでは行ってはいますが、なかなかそれをビルドアップして国へという動きはないということでしょうか。
尾石委員	何らかの一石を投じるというか、そういう目標でも良いとは思いますが。
小林座長	ある意味環境モデル都市という位置づけにはそういうニュアンスもあると思いますが、なかなかひとつひとつの項目でここから発信していくのは難しい気もしますがどうでしょうか。
尾石委員	先ほどは一般市民としての感想でしたが、もう少し日本国民として考えると、広域的に連携してほしいなということをおもいました。

	<p>隣同士の団体で連携しようとするのが難しいことも多いので、同じようなことを思っている自治体と連携して、連合体のような形で発信できるようなものがあると良いと思います。</p>
事務局 丹羽係長	<p>確かに当町においても、北海道下川町のように環境モデル都市・未来都市との交流というのは重要視されているものです。それらを繋ぎ合わせる、発展的に継続していくという部分についてはもちろん町という単位は必要になりますが、岐阜県や国、それぞれが総合戦略を策定しておりますので、それを勘案し当町の総合戦略に入れ込んでいる部分もあり、連動している部分もありますので、当町が当町の中でというところよりも、当町が実施してきたことが皆さんと繋がっているというイメージの中で実施していかなければいけないのが地方創生でございますので、町単独で終わるようなことではなかなか国の交付金の対象となつてこないというところもありますので、その連動性は意識したうえで事業展開を進めていきたいと考えております。</p>
事務局 玉川	<p>今の箇所に絡みまして、一部資料の修正がございます。 =====</p> <p>資料2中：基本目標1 「環境ファーストで未来を」⇒「自然のエネルギー活用を」 =====</p> <p>大変申し訳ありませんが、よろしくお願ひいたします。</p>
小林座長	<p>かなり数字が固まってきているのでなかなかコメントがしづらい部分もあるかと思いますがどうでしょうか。</p>
黒田委員	<p>ひとつお伺いしたいのは、CO2に関連するところです。CO2の排出量を削減量に変更するということですが、削減量の把握方法はこういった形でしょうか。</p>
渡辺副室長	<p>環境モデル都市推進室から回答をさせていただきます。 町では環境モデル都市施策の推進のため環境モデル都市行動計画を策定しており、この計画に規定する個別の具体的な施策に対してCO2削減量を算出しています。排出量については統計調査において産業部門、運輸部門など各部門ごとの数値を活用し、排出係数を乗じて算出していました。町が行っている施策に基づくものは削減量、全体の数値の把握については排出量という確認の仕方をしております。 まず御嵩町としてどれだけの行動をとって削減ができたかというのを表したいということで、削減量という言葉にさせていただきました。</p>
黒田委員	<p>東海化成工業も工業団地内に立地していますが、御嵩町の中では工業団地のCO2排出はウエイトが高いと思います。また、社内で確認したところ、当社のCO2削減については、岐阜県には報告しているが町には報告していないということでした。</p>

	<p>そこで工業団地の企業がどういう取り組みをしているか、ヒアリングしていただいて、それも指標として入れたらどうかと思いました。</p>
渡辺副室長	<p>工業団地の CO2 については産業部門に該当しています。削減量の計算方法は、岐阜県の製造業エネルギー消費量に、岐阜県の製造品出荷額に御嵩町の製造出荷額を按分したものと排出係数を乗じて推計値として計算しています。</p> <p>御嵩町の中でも排出削減の取り組みをされている企業は多数あり、1社ずつ積み上げていくのが本来の産業部門の削減量の確認をとる方法だと思いますが、かなり困難な部分であるというのがあります。現在、企業の取り組みについては、「環境の保全と創造に関する協定」を 19 事業所と締結していて、東海化成工業さんとも協定を締結しており、広報誌での紹介を行っています。また、将来的には、2月に行っている環境フェアにおいて企業の取り組みを紹介できればと考えており、そのような形で周知を進めていければと思っております。</p>
小林座長	<p>県で集計しているものに係数をかけてというやり方ですね。だから御嵩の工業団地で CO2 の削減努力をしてもそれが直で反映されるわけではないということになってしまいますね。</p>
渡辺副室長	<p>そこが厳しいところではあります。大きな事業所であれば独自で出しているの、部門の中ですぐに把握できる数字だとは思いますが、御嵩町の企業すべてを集計しようとする、かなり困難な部分です。</p>
黒田委員	<p>工業団地の主要企業だけでもヒアリングすれば、その数値だけでも岐阜県の数値と比べて結構高い数値になるのではないかと思います。</p>
小林座長	<p>せつかくの努力がしっかりと反映されているわけではないということですからそうですね。</p>
黒田委員	<p>確か 2017 年度からだったと思いますが、そこからの 5 年間で 5% の削減目標を環境省が掲げているのに対して、トヨタ自動車は同じ 5 年間で 8% の削減目標をたてていて、トヨタ自動車と取引をしている事業所は同じく 8% で動いています。工業団地も半分以上はトヨタ自動車とのつきあいがありますので、それだけでもグレードが上がってくると考えます。</p>
渡辺副室長	<p>御嵩町は岐阜県の統計数値からの按分であることを申し上げておりますが、エネルギー消費量の関係で申し上げるとかなり企業が頑張っている状況で、製品出荷額が増えているのに対して、エネルギー消費量はかなり減っています。通常は出荷額が増えれば CO2 の排出量ほうなぎのぼりに増えていきますが、排出量がほぼ横ばいに推移しているということは、より正確な数値を把握できればかなり良い数値が出てくると思われますが、岐阜県全体の数値を御嵩町が底上げして頑張っているということも読み取れると感じています。</p> <p>できれば、個別に取組等を紹介できる機会をもっと提供していきたいと</p>

	<p>思います。</p>
小林座長	<p>せつかくの取り組みが表に出てこないのは残念だとは思いますが、ほかによろしいでしょうか。</p>
永谷委員	<p>全体的に見ていて、SDGsに関する記載など先進的な取り組みがいろいろ出てきているように思って素晴らしいと思いました。</p> <p>ここには出てきていないですが、カーボンオフセットについても認証を受けて進んでいると思うのですがどうでしょうか。</p>
渡辺副室長	<p>カーボンオフセットについては、今現在庁舎に関連する部分とイベントの部分、それから森林経営信託に関するカーボンオフセットの2種類の運用を進めています。大きなものは森林経営信託で認証されたのが93tで、今現在は30tの売却が終了している状況です。</p> <p>今後については、これから企業においてもカーボンオフセットを認知していただくとということになると思いますが、なかなかそれが難しい状況で、カーボンオフセットはCO2を代わりに買って代替えることになるわけですが、この点については企業の自主的な努力が目立っていて、そこで削減をしているのも見えているという中でカーボンオフセットの取り組みが繋がっていくかというのがなかなか厳しい状態であるというのが今の状況です。</p>
永谷委員	<p>ニュースなどで、こういう取り組みがあるんだと以前からすごいなと思っていたのですが、他の自治体よりも先進的に実施している町があって、そこに関わっている人間、住民として、良いぞと思います。</p> <p>ただそれがどこまで住民に伝わっている、伝わっていくかなというところがもったいないという気がしていて、漠然と生活しているだけだと、こうした取り組みの素晴らしいところはあまり伝わってこない。そのあたりがうまくかみ合ってくれば、先ほどの「郷土を誇れると思う人の割合」も増えてくると思います。私自身がそうなので、住んでいて自慢になるようなものがあるのは良いと思います。</p> <p>私自身農家をしていて環境に関する意識が高い方がいらっしやったりしますので、そういった人に町の取り組みを話したりすると「すごいね」と言ってくれるし、それに対して「そうだろう」と自慢できます。そういった取り組みを皆さんに知っていただく努力を既にしているとは思いますが、もう少し工夫して行くと良いのかなというのは思いました。</p> <p>また、こういう取り組みはどうなのかなと思ったのは、郷土教育です。今もされていると思うのですが、実際に今住んでいるまちってどういうまちなのかは意外と知らない人が多いと思います。農業体験を通じて御嵩町の人たちと話をしたりしますが、意外と外から来た自分よりも知らないことがあるなと思うし、逆に教えてもらうことも多いですが、そういう郷土に関する昔から当たり前やってきたことや、他地域と比べると特別な</p>

	<p>ことなどを身につけていく教育の機会がもっとあったら良いという気がしました。</p> <p>これが御嵩だ、というのが伝わってくるような、イメージしきれないので無責任なことを言って申し訳ないのですが、そういうものがあると良いと思いました。</p>
小林座長	<p>御嵩町だけではなくほかの自治体でもそうですが、まちの魅力というのは外から来た人が見つける、中の人にはそれがあって当たり前であって魅力でも何でもないというのをよく聞きますので、当たり前のものでも実は御嵩にしかないもの、そういうニュアンスですよ。</p>
永谷委員	<p>そうですね。そう考えてみると先ほどの尾石委員の話とも繋がってくるかもしれないですが、他地域との連携をそういう風に展開できれば。例えば御嵩町の良さとか可児市の良さ、多治見市の良さというところでお互いに良いところを見つけあってみるとか、そういう紹介しあいというのがあるだけでも面白いと思います。</p>
小林座長	<p>ひとつ教えていただきたいのですが、基本目標3のところに「IoT や AI を活用した地域産業の創出」とありますが、個人的にはかなりハードルが高いなというのと、目標値が1とか2で「あるなし」では難しい気がしますが、このあたりの見込み、あるいはチャレンジする意味合いというのはどこにあるのでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>この施策については、雇用の確保、また今後の担い手不足といった現状がある中で、おそらく今後さらに明確になってくるところを含めて、こういったものは御嵩町であろうと他の地域であろうと、全国で取り組まなければいけないことですし、そういった人材を御嵩町においてもプログラミングスクールなどで礎をつくっていくという繋がりも含めて、こういったものは考えていきたいということで施策に入れています。</p> <p>実際にIoT や AI を導入している企業についても、実際に調査などを実施できているわけでもないところもあり、我々もそのあたりを勉強させていただきたい、相互の情報交換も含めて施策に入れています。</p>
小林座長	<p>ということは、意味合いとしては企業に頼ってしまうような目標ではあるけれど、プログラミング教育などを通じて間接的には後押しをするようなニュアンスということですね。わかりました。</p>
尾石委員	<p>よろしいですか。資料を読んでいてイメージが湧かない箇所がありました。20 ページの主な施策の中のその他の事業に記載のある「ドローン活用人材育成事業」ですが、具体的にドローンを活用してどういったことをするイメージでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>現状御嵩町内でドローンによる空撮を実施している方が1名いらっしゃいますが、その方におんぶにだっこの状態です。実際にドローン自体は、地形の把握や災害時の活用、観光PR等用途は多岐にわたります。その中</p>

	<p>で各部署へもヒアリングを行った結果、将来的にはこういったものもやっていきたいという話も出ました。</p> <p>御嵩町の職員がそれをやれば早いですが、正直なところ、民の皆さんと一緒に災害対策やまちづくりなど行っていきたいということを考え、ここに行政が主体となる文言を入れてしまうと誤解を受けるというのもありまして、ドローンを活用することができる方を今後増やしていくことはできないかということで記載をさせていただいております。</p>
小林座長	<p>なかなか町民が最初に立って、行政が後方からサポートするというのはやりづらいところもありますね。</p>
事務局 丹羽係長	<p>選択肢をたくさん用意したうえで、こういったものを活用してもらえるか、ひとつは防災というのは大きなウエイトを占めます。特に山あいの人が入っていけない場所の災害対策なども含め考えていきたいと思っています。</p>
重政委員	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>目標値は5年後2024年度ということですが、年度ごとの目標値はたてないということでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>こちらの目標値は5年間という比較的長い期間で見えています。最後の年の目標に向けて事業を進めていきますので、5年間累計の指標のものもあるので、目標の内容によって事業の進捗状況を追えます。進捗状況についてはこの有識者会議やみたけ創生みらいの人材育成協議会という別組織でご助言をいただきながら最後の目標に向かって進めていきたいと思っています。</p>
黒田委員	<p>先ほど座長がおっしゃった目標値が1とか2とかという話に関連して、「本社機能を移転した企業数」についてですが、本社機能というのは非常に微妙な表現で、まさに東海化成工業自体が、平成元年に小牧から工業団地に自動車以外の向上を建築し、それから10年くらいかけて本社機能を移して、そこからさらにいろいろあって、登記を御嵩町の方に移したという経緯があります。さまざまな部門を順次移していったという状況で、特にそれを町に報告しているわけでもないのに、どの時点で把握されるかという問題もあるように思います。また、本社機能としても小牧の商工会、市役所、税務署など、なかなか良い顔をしてくれないというのもあって、なかなか本社を移すのは大変なことでした。</p> <p>そういうこともあり、もう少し「活動拠点を設けた企業数」などにしてはいかがでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>このKPIについては、別の地域再生計画というものに基づいて動いています。東濃クロスエリアという東濃5市と可児市、御嵩町で企業誘致のために動いている「東濃クロスエリア特定業務施設整備事業計画」というものがあり、こちらに本社機能を移転した企業数のKPIについて国の承認を</p>

	<p>受けていて、その中身も研究機関を移してきたものなどの定義づけがしっかりとしてされています。それを考えると国や県に報告として挙がっているもの、それを東濃クロスエリア内で行う会議において報告されるものの件数ということになります。</p>
坂口委員	<p>ついでに聞いてしまうと、1社というのは現在ありますか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>現時点で1社というところに行き着いていません。 これについては県事務所の商工担当へは報告が随時上がるようになっているかと思えます。</p>
小林座長	<p>KPIのうち「滞在型農業体験施設の宿泊者数」について、5年間累計で3,600人となっています。計算するとだいたい1日あたり2名となると思いますが、こちらは1棟あるだけだったかと思えます。そう考えると週末になると10人くらい泊まらなければいけないと思うので、少しハードルが高いかなと思えますが、将来的にはこうした施設を増やしていくとか、そういう予定はありますか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>こちらの施設は昨年5月にオープンして、現状約200人ほど宿泊している状況です。寒い時期、閑散期とありますので、そういったものを加味しながらカウントをしました。 月の半分は稼働してほしいというのを最低限のラインにして線引きをさせていただいたというところで、また、最大でも8名までの宿泊ということになりますので、それらを勘案して3,600というKPI設定を行いました。 直近で長期滞在の方もあり、インバウンドでイギリスの方が24泊、気に入っていただいて今月から宿泊していただく予定です。</p>
事務局 山田課長	<p>現実的なところの上限として、目指していきたいものとして設定をしました。</p>
小林座長	<p>お話を聞く限りだと、評判が良いわけですね。今の施設をこれから増やしていくということは。</p>
事務局 丹羽係長	<p>行政としてのモデルのような形としてという意味もありますし、もし民間の方の中で、いわゆる民泊や簡易宿泊所のようなこともできますので、そういったものが広がっていけばこの施設も良い指標になっていくのではないかという考えも持っていますが、現段階で御嵩町で新たにということはありません。</p>
小林座長	<p>そうですね。確かにモデルケースになるのであれば行政がやる必要はないですね。すみません。 ほかにどうでしょうか。 では議題としては先に進めさせていただきますが、あとでまたあれば改めて教えていただきたいと存じます。 議題2のその他として何かありましたらお願いします。事務局から来年</p>

	<p>度以降の地方創生推進交付金事業について報告があるようですのでお願いいたします。</p>
事務局 丹羽係長	<p>では、令和2年度の地方創生推進交付金事業の実施計画についてご説明をさせていただきます。</p> <p>=====</p> <p>地方創生推進交付金事業計画の概要説明</p> <p>=====</p> <p>以上で説明を終わらせていただきます。</p>
小林座長	<p>ありがとうございます。これにつきまして何かご質問等はありませんでしょうか。</p> <p>「宿場まち人材育成事業」について、終了するとのことですが、引き続き宿場町の活性化に努めるとあります。これは町が実施するというのでしょうか。あくまで申請のための取り組みからは外れるが、活性化は非常に大事だと思いますので、そのサポートをしていくということでしょうか。</p>
板屋係長	<p>町がという主語ももちろんありますが、地域住民や観光に興味を持っている方も含めて、宿場を点ではなく面で捉えていくような取り組みをしていこうということで、先日柏屋の見学会を実施したところそういったご意見も出ましたので、みんなで取り組んでいこうというような方向にもっていきたいと考えています。</p>
小林座長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは少し戻って先ほどの第2期総合戦略につきまして、お気づきの点がありましたら、改めてお願いいたします。</p> <p>では確認させていただきたいのですが、今回基本目標4つと、それに紐づく施策がいくつかあるという形ですが、これはあくまで第2期のスタート時の目標であって、総合戦略の期間中であっても必要に応じて変更、見直しが出てくるという認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>はい。その通りです。</p>
小林座長	<p>わかりました。ほかに何かお気づきの点等ありましたら。</p>
永谷委員	<p>基本目標2施策1の「安心して子育てしやすい環境づくり」の項目についての質問です。保育園待機児童数0人で目標が0というのは、今現在待機児童がいないので現状維持という感じですか。</p>
事務局 丹羽係長	<p>待機児童数ですが、1とか2が出るというのは、もちろん保育園に入れない子どもがいるということを示しますので、0を維持することが大事だということでこの目標値を掲げております。</p>
永谷委員	<p>わかりました。</p> <p>もうひとつですが、その下に「1歳6か月から3歳までの子どもの朝食</p>

	<p>欠食者の割合」ですが、現状の4.3%を0%にするという目標ですね。この中にいろいろな欠食者の方がいらっしゃると思います。家庭の事情、ネグレクトなど、いろいろな可能性があると思いますが、お子さんが朝ご飯を食べると調子がわるくなってしまうとか、そういう可能性があった場合、どういう風に数値に反映していくのかなと思いました。</p>
事務局 丹羽係長	<p>欠食といいますか、自ら食べようとしない、食べさせないというところの欠食という概念ですので、もちろん持病の子どもだとかで食べたくても食べられない子どもさんは別の扱いになってしまいます。</p> <p>通常、健全であるが故に欠食をなくして、子どもさんが健やかに育てる環境をつくっていく、自ら成長できる環境にしっかりとしていきたいと思いますという目標です。</p>
永谷委員	<p>健康な子に対しての目標と捉えてよろしいですね。わかりました。このケースとは違う話になってしまいますが、0%にしなければいけないというのが逆にプレッシャーになってしまうのではという心配もしたので、保護者や学校などにプレッシャーにならないようには心掛けてほしいです。</p>
小林座長	<p>最近では親の都合で食べられないなんてこともあり、こども食堂なんてものも出てきていますが、やはり食べられる子どもには食べさせるというのは基本かなと個人的には思います。</p> <p>それに対して行政を含めた周りかどのような役割ができるかということを考えていく話ではないかなと思います。</p>
永谷委員	<p>なんでもかんでも食べさせろというわけにもいかないし、難しい部分ではあるかなと感じます。</p>
小林座長	<p>0と0.1は全然違いますからね。</p>
永谷委員	<p>認められるのかそうではないのかというところですね。ありがとうございます。</p>
小林座長	<p>ほかによろしいでしょうか。</p> <p>それではここで(1)の第2期総合戦略の件、それからその他の議題についてご意見をいただきましたので、これで議事につきましては終了とさせていただきます。</p> <p>それではここで事務局に進行をお返しします。</p>
○閉会	
山田課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで今後の予定についてご連絡させていただきます。本日皆さまにいただきましたご意見を踏まえ、町の推進本部に諮り修正すべき箇所を修正し、パブリックコメントを行います。パブリックコメントを経て第2期総合戦略を確定する前に、皆さまにお集まりいただいて確定させていただきたいと思っています。時期としては3月の2週目ころかなと思っています。</p>

	<p>す。お忙しい時期とは存じますが、都合のつく限りご出席いただければと思います。</p> <p>それでは閉会にあたりまして総務部長の伊左次よりご挨拶申し上げます。</p>
伊左次部長	<p>みなさん年明け早々に長時間にわたりまして中身の濃い話を議論していただきありがとうございました。今後第 2 期の総合戦略につきましては、さきほど課長の山田が申し上げたとおり、再度最終で皆さまにご確認いただくことになってくると思いますのでよろしく願いいたします。</p> <p>今日のお話の中で、いかにこの戦略を町民の皆さんに知っていただくというところは今日の会議の中でも改めて非常に重い課題であると思っています。それについてももしっかり考えていきたいと思っていますので、よろしく願いします。本日は長時間にわたりありがとうございました。</p>
山田課長	<p>ではこれにて第 10 回みたけ創生有識者会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p>